

答え合わせ・解説

問1	答え 1 石炭	中国は世界の石炭生産において圧倒的なシェアを誇っており、2013年時点の統計では57.8%と世界全体の半分以上を生産しています。石炭は中国のほか、インドやインドネシアといったアジア諸国、そしてアメリカ合衆国などで多く生産されているのが特徴です。石油や天然ガスと比較して、中国の占める割合が極めて高い点が判別のポイントとなります。
問2	答え 1 安価な労働力を生かして外国企業を誘致し、衣類や電気機器などの工業化を急速に進めてきた。	ASEAN諸国は、1970年代以降、外国資本や技術を積極的に導入することで、従来の農業中心の経済から工業中心の経済へと大きく転換しました。特に、豊富な労働力を背景に衣類や電気機器の組み立てなどの輸出向け工業を発展させ、「世界の工場」の一部として重要な役割を果たしています。この経済発展により、域内での経済協力の重要性がさらに高まっています。
問3	答え 1 ヒन्दウー教	インドで最も信仰されている宗教であり、牛を神聖視して食べない、ガンジス川で沐浴を行うといった、生活に深く根差した文化や習慣を持っています。仏教はインドで誕生しましたが、現在のインドでの信仰者はごくわずかです。また、肌を露出しない伝統的な黒い服を着用する女性が見られる場合は、西アジアなどで多く信仰されているイスラム教の文化の影響が考えられます。
問4	答え 1 憲法によって、身分による差別をすることが禁止されている。	カースト制度はインドの伝統的な身分制度として、職業や結婚などの社会生活に長く影響を与えてきました。しかし、現代のインドでは民主化と人権尊重の観点から、憲法によってこの制度に基づく不当な差別を明確に禁止しています。現在も社会的な慣習として一部に影響が残っていることが課題となっていますが、法的に容認されているわけではありません。
問5	答え 1 プランテーション	熱帯地域において、特定の作物を単一栽培（モノカルチャー）する大規模な農園はプランテーションと呼ばれます。歴史的に植民地支配と深く結びついており、現地の経済構造が特定の農産物の輸出価格に左右されやすいという課題も抱えています。
問6	答え 1 チャオプラヤ川流域の肥大な平野や首都周辺に人口が集中しており、人口密度が高い。	タイは東南アジア大陸部の中央に位置する国です。中央部を流れるチャオプラヤ川流域は広大な平野となっており、古くから稲作が盛んで人口を支えてきました。特に政治・経済の中心である首都バンコクとその周辺部では、工業化の進展も相まって人口密度が非常に高くなっています。選択肢にあるドイモイ政策はベトナム、島嶼部の特徴はインドネシア、マレー半島先端の都市国家はシンガポールの説明です。
問7	答え 1 サウジアラビア南部、インド南部、ミャンマーなどのインドシナ半島北部を通過している。	北緯20度線は、アジア大陸の南半分を横断する重要な境界の一つです。西ではアラビア半島の南部（サウジアラビアやオマーン）を通ります。南アジアではインド半島の南部を、東南アジアではインドシナ半島の北部（ミャンマー、ラオス、ベトナムなど）を貫いています。選択肢にある西アジア北部やヒマラヤ以北は北緯30度以上、日本列島や中国北部は北緯35度から40度付近、スリランカやマレー半島は北緯10度より南側の地域に該当します。
問8	答え 1 牛を神聖な動物として崇めるため、牛肉を食べることを避ける習慣がある。	ヒन्दウー教では牛が神の乗り物として神聖視されており、殺生や食用を避ける文化が根付いています。一方で、歴史的には「カースト」と呼ばれる身分制度と深く結びついてきた背景があり、現在も社会的な影響が残っています。豚肉を禁忌とするのは主にイスラム教の特徴です。
問9	答え 1 内陸部と沿岸部の間に大きな経済格差があり、現金収入を得るために農村から都市へと「出かせぎ」が行われている。	中国では1970年代末からの改革開放政策により、外資を受け入れやすい沿岸部で先行して経済発展が進みました。その結果、経済発展が遅れ賃金水準の低い内陸部と、発展した沿岸部の間に著しい経済格差が生じました。内陸部の農村に住む人々は、より高い賃金や現金収入を求めて、沿岸部の都市へと移動して働く「出かせぎ」を活発に行っています。